

1 単元名

表現の意図を考えて、解説書を作ろう（『故郷』魯迅 竹内好 訳「東京書籍3年」）

2 単元の目標

- (1) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)イ
- (2) 文章の展開や表現の仕方について評価することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ
- (3) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間力等〕

3 本単元における言語活動

文章の展開や表現の仕方に着目し、魯迅の表現意図を解説する。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (1)イ	①「読むこと」において、文章の展開や表現の仕方について評価している。 (C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 (C(1)エ)	①積極的に文章の展開や表現の意図などについて考え、学習課題に沿って考えたことについて解説書にまとめようとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本教材には、社会の厳しい現実の中で人々の人間性がすり減ってしまったことへの失望から、新しい生活への希望が見い出されるまでの道筋が、巧みな人物配置と場面展開によって描き出されている。しかし、その表現が巧みであるがゆえに、ともすると作者が読者にあてたメッセージの伏線に気付かず、読みの深まりが不十分なままになることが危惧される。そのため、作者の書き方の工夫について気付いたことを交流することで、その工夫の意図を理解することができれば、読みを深め、作品をより楽しむことができる。文章の展開や表現の仕方について特徴をつかみ、なぜ作者がそのような工夫をしたのかを考えることで小説に託した意図を捉え、さらにその意図について評価していくことができるだろう。以上のことから、文章の展開や表現の仕方について評価する力をつけるのにふさわしい教材であると考えられる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、2年生の後期に「走れメロス（太宰治）」で、人物や情景の効果的な描写に着目して作品を読み深めるために、読み比べをしたり、もしその描写がなかったらどうかと仮定して考えたりすることを行った。3年生の前期に、「形（菊池寛）」で、文章の展開や表現の仕方について批評するために、文章の展開や表現効果の印象についてなぜそう感じるか、そう感じた理由から分析的に考えるなど、多様な思考方法を駆使して作品を読み深めた。これらの活動を通して、作品の特徴を捉え、その効果を考えることで人物や情景の効果的な描写に着目しながら作品を読む力が身に付いてきた。

令和4年度全国学力・学習状況調査では、3四『おれ』は何を『なるほど』と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く」問題の自校正答率は*%（全国正答率73.8%）であった。しかし、誤答を見ると、話の展開にふれていない生徒が*%（全国6.9%）であった。意識調査①②を見ると、読書、特に物語文を読むことを好む生徒が多いことが分かる。しかし、読書の楽しさを表面的な内容の面白さに感じ

ている生徒が多く、文章の構成や展開、表現の仕方などに魅力を感じている生徒は少ない。2つの調査結果から、文章の展開や表現の仕方に着目して、自分の考えをまとめる力が不十分な生徒が多いことが分かる。これは、今までの授業で作品の文章の展開や表現の仕方について生徒に意識させ、物語を多様に楽しむことができるようにすることにまで至らなかったためであると考え。

（実態調査） 令和4年度 全国学力・学習状況調査 (令和4年*月*日実施)

国語 3 四	正答	誤答
「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く。（場面と場面、場面と描写を結び付けて、内容を解釈する。）	*	展開を取り上げていない：*人 理由を取り上げていない：*人

（意識調査） (令和4年7月20日14人)

項目	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまらない	あてはまらない
① 読書をするのが好きである。	*人	*人	*人	*人
理由	・あてはまる ・ややあてはまる ・ややあてはまらない ・あてはまらない	・内容が面白い：*人 ・原作のマンガや映画が好き：*人 ・活字を読むことが面倒だ：*人	・連載物で次にどうなるかが気になる：*人 ・知識が得られる：*人	
② 物語文が好きである。	*人	*人	*人	*人

（3）指導観

本単元では、「文章の展開や表現の仕方に着目し、魯迅の表現意図を解説する」という言語活動を設定し、単元を通して実践する。その理由として、条件に合わせて答えたり、根拠に基づいて考えを述べたりすることができる生徒が少ないため、ある事柄についてその特徴と効果を述べた上で評価する解説という活動を行えば、文章の展開や表現の仕方について評価する力が付くと考えたからである。

具体的には、作者が読者にあてたメッセージとなっている「故郷」の結末部分について、「どうして作者は最後に『道』という表現を使ったのか。」を学習課題とし、作者の思いを想像したり、高村光太郎の「道程」と比べ読みをしたりする。これらの思考方法は、生徒個々が考えやすいものを選択する。自分に合った思考法を用いれば、自分の考えを持ちやすくなるとともに、これまでの学習を通して身に付けたことが生かされ、定着が図られる。生徒が考える際には、文章全体から作者の意見を捉えることができないことに配慮し、文章の読み方、即ち比喻表現において「希望」という抽象的なものを「道」という具体的なものに置き換えて表現していることを全体で確認しておく。その後、話し合う活動を設定し、交流しながら、学習課題に対するまとめを行うことで、考える方法は違っても課題に対するまとめは同様になることに気付くことができるようにする。そして、表現意図について解説することで定着を図る。その際、生徒の語彙力が低いことに配慮し、辞書やタブレット端末を利用して難語句の意味を確認することができるようにし、文章理解を補助するとともに語彙を増やすことができるようにする。さらに、グループ学習の際はワードファイルを共有化し、ホワイトボードのように考えを自由に書き込めるようにすることで考えを可視化し、話し合いや自分の考えを整理して解説書を作るときに役立てるようにする。

このように学習活動を工夫すれば、文章の展開や表現の仕方について評価する力が育つであろうと考える。

6 単元の指導計画（6時間扱い） ○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1	学習の流れや学習課題をつかみ、学習の見通しをもとう。 ・「故郷」全文を通読し、作品の大まかな内容を把握し感想を書く。 ・学習課題を確認し、モデル解説文を参考に単元の見通しをもつ。 【学習課題】 どうして作者は最後に「道」という表現を使ったのだろう。～解説書を作ろう～	○			知①：新出語句や漢字の確認を行い、つまづいている生徒には、辞書やタブレット端末を使って調べるように助言し、語彙を増やせるよう促す。 【ワークシート・観察】 ◎ 態①：学習の見通しをもてないでいる生徒には、モデルを提示することで単元の学習全体のイメージをつかめるように促す。 【観察・振り返りの記述分析】

2	2 3 4	取り巻く環境の変化から、主人公はどんな考えをもつように変わっただろう。 - 場面設定を確認し、「帰郷」の場面を読み取る。 - 少年期の回想場面と「離郷」の場面とを読み比べ、描写をもとに、登場人物の人間関係や心情の変化を読み取る。 - 読み取ったことをもとに考えたことを解説書にまとめる。 すべての人が「希望」を持ち、かなえようとしなければいけない。	○ ○ ◎	○ 思②：つまづいている生徒には、具体的な描写を挙げながら個別に助言することで、登場人物の変容とその理由について気付けるように促す。 【交流場面の観察】 ○ 思①：つまづいている生徒には、ペア活動の時間を確保し、場面ごとに展開や表現を確認し、特徴的な表現や展開に気付くことができるようにする。 【活動の様子を観察】 ◎ 態①：文章の特徴を捉え、その効果を考えようとしている。 【ワークシートの分析】 ◎ 思②：作品に込められた思いを読み取り、その思いに対して自分の意見をもっている。 【ワークシートの分析】 ◎ 知①：言葉の意味を正しく理解し、読解に役立てている。 【ワークシートの分析】
3	5 6 本時	目標：魯迅の表現意図を解説する。 どうして作者は最後に「道」という表現を使ったのだろう。～解説書を作ろう～ - 課題解決の見通しをもつ。 - 魯迅の思いを想像して考える。 - 高村光太郎の「道程」と比べて考える。 - もし「道」の表現がなかったらどうか考える。 「道」の描写を読んだ後に感じたこととその理由を考える。 - 考えたことについて、グループで交流する。 - もともと「道」はないと言っていることを確認する。 - 歩くことで「道」が作られていくことを確認する。 「道」は「希望」に置き換えられる、「希望」が「道」に例えられていることを確認する。 - 解説書にまとめ、全体で交流する。 「例え（比喩）」「希望」の二語を用いて解説書をまとめる。 - 解説書をもとに交流する。 - 本時の課題に対するまとめをする。 比喩を用いることで、新しい生活を目指して行動する人が多くなれば、「希望」がかなうということを効果的に伝えようとしたため。 - 単元の学習を振り返る。 - 単元の学習を通して学んだことや次の学習に生かしていきたいことについて振り返りシートに記入する。	○ ◎	○ 本時の課題や学習の流れを確認し、学習の見通しをもてるようにする。 ○ 課題解決の見通しを共有することで、自分の考えを整理できるようにする。 ○ 思①：つまづいている生徒には、発問を組み合わせながら「道」が比喩しているものについてイメージできるようにする。 【交流場面の観察】 ◎ 思①：文章の展開や表現の工夫の特徴を捉え、その効果について批評している。 【ワークシートの分析・交流場面の観察】 ◎ 態①：単元の学習を通して学んだことを学習課題に沿って的確にまとめ、次の学習に生かそうとしている。 【振り返りシートの分析】

